

20210510 号	スイカが空を飛ぶ？	副所長 大山知宏
20210517 号	上海の飲食店の現状	副所長 前田千晶
20210524 号	天安千樹 上海蘇州河畔に浮かぶ「バビロンの空 中庭園」	所長助理 徐潔
20210531 号	新型コロナ感染症ワクチンを打ちました	所長 南浦秀史

スイカが空を飛ぶ？

皆さんは、中国の山東省にどういったイメージをお持ちでしょうか？政治の中心地である北京や経済発展が著しい上海とは違い、そもそもどの地域にあるのだろうか、などピンとこない方もいらっしゃるかと思います(かつての私もそうでした・・・)。

先月末、山東省人民政府らの主催による「日中韓マッチング協力発展山東大会」が、省都の済南市で開催され、日中韓の政府代表、企業代表や地方自治体関係者らが出席し、各地の経済活動が紹介されるなど、活発な交流が行われました。同省の発表によると、2020 年の域内総生産(GRP)は、前年比 3.6%増の 7 兆 3,129 億元(約 117 兆 64 億円、1 元 = 約 16 円)で、中国国内 31 省で 3 位とのこと(1 位は広東省、2 位は江蘇省)。ビールで有名な青島市など、中国大陆の沿岸地域という地の利を活かした貿易業が盛んに行われる一方、近年では、水素エネルギー産業にも注力を始めたことから、今回の同イベントでは、大阪の水素関連の取組についても広く PR を行いました。

今回の出張では、同省内のイ坊市に訪問する機会もありました。山東省の人口が約 1 億人、同市は大阪を超える約 900 万人の大都市です。同市の特色は農業の高度化です。中央政府からも国内の重要拠点の一つとして指定されており、品種改良に適した大型の試験区も設置されています。視察中、スイカ栽培の見学のため、ビニールハウスを訪問しました。ハウスの大きさが日本の何十倍もあり、それだけでも驚きでしたが、中に入るとさらにビックリです。なんと、スイカが空中に浮いていました！

空中栽培は、一般的な栽培方法の 1/3 の面積だけで良く、風通しも良いことから、病気にもなりにくいとのこと。室内の環境や固体の生育状況は IoT で管理されており(ただし、食べ頃かどうかは、人のチェックが不可欠とのこと)、今やブランド品となったこの小玉スイカは、1 玉が 100 元(1600 円)と割高ですが、贈答品等で入手困難とのこと！

視察前は、山東省の一地方都市という認識でしたが、先端技術を駆使しながら着々と 6 次産業化を進める現場を目の当たりにして、将来的な大阪との経済交流の可能性を確認することが出来ました。



上海の飲食店の現状

【上海の飲食店の現状】

近頃、アメリカのファーストフード店「FIVE GUYS」が上海で中国初出店を果たし、連日大行列ができています。これを契機に、今回は普段あまり気にしていない、上海の飲食店について調べてみました。直近では日本側の調査が行われていなかったため上海の統計局、大衆点评(中国の評価サイト)などで情報収集しました。

2020 年はコロナウイルスの影響もあり、上海での飲食店・ホテル業の売上は 1178 億元(約 1.9 兆円)と、前年度比 19.6%減少しています。とはいえ、マーケットとしては依然として大きいと言えます。例えば、飲食店の店舗数について言うと、2021 年 5 月時点では上海の飲食店は約 244,000 軒あります。その中でも、上から順に上げるならば、ファーストフード店は約 95,000 軒、ベーカリーは約 11,000 軒、カフェは 7,500 軒、火鍋は 7,000 軒となっています。他方日本レストランは 3,882 店舗と相対的には少ないものの、上海だけでもこんなにも沢山日本食レストランがあるとは驚きでした。

人気のお店はお客さんの大多数が中国人で、2 カ月に 1 回程度行くような店でも、日本人が少ないため、顔を覚えられほです。現地化したメニューも多く、分量も結構多かったりします。また客単価もお店によってさまざまですが、客単価が上海で一番高い店舗では一人当たり平均消費額が 3800 元(約 6 万円)のお店もあり、日本と同様、「いいもの」なら受け入れられる中国の文化が垣間見られます。

5 月 27 日(木)のオンラインセミナーでは、上海で頑張っている飲食店経営者のお話をお伺いする予定です。是非是非ご視聴下さい。



あなたは「バビロンの空中庭園」を知っていますか？今、まさにその「バビロンの空中庭園」の上海版が、魔法のように颯爽と姿を現しています。その名も“天安千樹”。イギリス人設計士トマス・ヘザーウィック氏がデザインした“天安千樹は上海蘇州河畔にあります。遠方から見るとまるで里山のように見える独特の構造が際立つ存在感を示しています。無機質で硬派な高層建築が立ち並ぶこの街で、このような緑に溢れた建築は実に情緒豊かで、まるで現実世界に顔を覗かせた桃源郷のようでもあります。

この空中庭園は“天安陽光広場プロジェクト”と命名されました。そのほか「天安千樹」という美しき名前もあります。天安陽光広場プロジェクトは東西2区画に分かれ、建築総面積は278,500平方メートル（※地下駐車場・設備室含む）です。そのうち西側区画が商業および娯楽の中心地であり、地上の建設面積は約67,250平方メートル、地下の建設面積は約43,600平方メートルとなります。東側区画はビジネスセンター（オフィス・ホテル）として機能し、約4,000平方メートルの保護された建物に加えて、地上の建設面積が約106,750平方メートル、地下の建設面積が約56,900平方メートルとなります。

設計者のトマス・ヘザーウィック氏はインタビューで次のように述べています。「当初の構想では、山の庭は建物に内在する要素ではなく、中庭のような区分された空間になる予定でした。その後、全体設計のプロトタイプとして、緑の植物で覆われた2つの山という構造が持ち上がり、その植物を建築的・景観的に適切に配置する事に決まりました。そうして1000近くの新たな建造物が設けられる事になったのです。」

その後ヘザーウィック氏が空間構造を公開した際、そこで「柱」が大きな注目を浴びる事になりました。「このような巨大な建物は、通常、800本以上の柱を支える必要があります。一般的には柱を隠し、シンプルな空間を確保しようとする。」しかしヘドウィック氏は建築における重要なコンポーネントである柱を敢えて外部に出し、機能性とデザイン性の両立を果たす事にしました。

「建物はただの建物」という制約から脱却し、層ごとに浮かび上がる「立体緑化」は、周囲の住居や自然景観との境界線を曖昧にし、空間に対する人々の感覚を心地良いものへと昇華させます。また森林に覆われた山を模したこの建造物は、温室効果・騒音・ほこり・有害空気の軽減に貢献すると共に、周囲生態環境と二酸化炭素・酸素バランスの改善の機能を果たします。いわば「適切な都市の肺機能」を体現する役目も担うのです。

これら1,000本の木がを健やかな森林に成長する事を可能にするために、同プロジェクトはまた、高度な高木固定、自動灌漑及び雨感知を統合する最新の植林システムを備えています。その中でも自動灌漑システムは、正確に水深の制御、水の節約、樹木根近くの土壌の効果的な保湿などの管理を容易にします。この最新システムにより、従来の散水、メンテナンスによって引き起こされる土壌侵食や圧密(土壌が固まる)などの多くの欠点が回避されるのです。

未来に向かい、「天安千樹」は蘇州河沿区域において特異な空間造形を示しながら、文化的・歴史的痕跡を紡ぐ新たなアイコンとなっています。



新型コロナウイルスワクチンを打ちました

上海では、街中に即席のワクチン会場が設置されて、すぐにその場で打てるようになってきたりもしていますが、先日、外国人向け会場でワクチンを打ちましたので、その経験をお知らせします。

私が住んでいる地域では、外国人のワクチン接種は、携帯電話のアプリから申込みます。病院は 3 か所から選択でき、私が選んだ病院では、毎週月曜日と土曜日の午後に予約を受付けていました。30 分刻みで申込みができ、直近の日では既に午後の早い時間は満席になっていました。

当日、時間通りに病院へ行くと、病院の敷地に仮設のテントが張っており、そこに外国人が列をつくって並んでいます。ざっと 100 人くらいでしょうか、西洋人が多いように思います。列に並んで、問診票に記載し、署名します。問診票は英語と中国語表記ですが、説明は英語と日本語でした。次は支払いです。外国人は 100 元(1600 円)を負担します。ここもちろん、携帯電話の電子マネーでの支払いです。それが済むといよいよワクチン注射です。係員に列に並ぶように指示されて待ちます。部屋の中に 20 くらいのブースがしつらえてあり、そこで注射を打っています。同じような部屋がほかに 2 つありました。空いたところに行くように言われて席に座ります。どのワクチンにするかと聞かれて、シノファーム製とシノバック製の 2 種類があり、選択できることを初めて知ります。何も調べていなかったのか考えあぐねていると、あなたはこちらの方がいい、と言われてそれを打ちました。あとで調べてみると、シノファーム製で WHO の承認を受けたほうでした。注射を打った時間が記載されたシールを手渡され、30 分間経過観察した後、帰れることを聞き、待合室に行きます。出口には人が座っていて打った時間を確認しているようなので、おとなしく座って 30 分間待ち、病院から出ました。2 回目は 3 週間あけなければならないので、待っている間に予約を入れました。

中国の人は打ったら卵がもらえとか、外国人も水がもらえといった話を聞きますが、私の病院では何ももらえませんでした。公共の建物に入るときに提示しなければならないアプリがあるのですが、それを見るとちゃんとワクチンを打った日、種類、回数が登録されていました。2 回打つとアプリの画面が金色に変わるそうです。その横には PCR 検査を受けた結果も出ていました。いま、街中でワクチン接種のキャンペーンがはられているようで、近所のスーパーの入口でも勧誘をしています。周りでも打つ人がぼちぼち出ています。ドイツのビオンテックが中国当局の認証待ちで、ビオンテックなら打つという友人もいます。中国では、この広い国で、一人、陽性反応が出ただけでも全国ニュースで報道があります。変異型の小さなクラスターも発生していますが、そこは拡大しないよう完全に抑え込んでいるように思います。

